

第 1 1 3 回東北地方交通審議会
船 員 部 会 議 事 要 録

平成 3 0 年 3 月 2 3 日
東 北 地 方 交 通 審 議 会
船 員 部 会 事 務 局

東北地方交通審議会 第113回船員部会

日 時 平成30年3月23日（金） 15：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：高橋（真）部会長、増田部会長代理、
佐々木委員、森委員

労働者委員：熊谷委員、高橋（雅）委員（欠席）、津田委員（欠席）

使用者委員：齋藤委員、白幡委員、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長、阿部海事振興部次長
和田船員労働環境・海技資格課長
澤村船員労政課長、大友労政係長

- 議 題
- （1）部会長の選任並びに部会長代理の指名について
 - （2）船員の特定最低賃金の改正決定に関する公示について
 - （3）管内の雇用等の状況について
 - （4）その他

配付資料

- 資料1 船員の特定最低賃金の改正決定に関する公示
- 資料2 船員職業安定業務取扱状況説明資料（1月分）
- 資料3 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料4 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料5 新規求人・求職数（全国）
- 資料6 有効求人・求職数（全国）
- 資料7 有効求人倍率（東北管内）
- 資料8 有効求人倍率（全国）
- 資料9 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【阿部 海事振興部次長】

〔第113回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 部会長の選任並びに部会長代理の指名について

【増田 公益委員】

今回から新しく参加することになりました東北大の増田です。よろしくお願いいたします。

ちょうど研究室の向かい側に長谷部先生がおられまして、それでこの引き継ぎという話を少し前に伺いました。個人的には、もともとは都市計画とか地域開発の話を行っておりまして、どちらかというところ、国交省では青葉区の方にあるところのおつき合いが都市計画関係とか地域開発関係であったのですが、こちらは伺いすることがこれまで余りありませんでした。地域経済という授業も行ってございまして、そこで物資輸送のモーダルシフトみたいな話もしていますが、実は余りこういう現場のことをよく存じ上げませんので、また皆様からいろいろ教えていただきながら、委員をやらせていただきたいと思っております。

あともう1点、卒業生の中に、たまたま弓削商船高専の教員をやっている教え子が1人いまして、そこで最近、船員さんの採用がみたいな話もうわさの程度ですが少しは聞いています。いろいろこれから審議に参加していきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【高橋（真） 部会長代理】

ただいま事務局から報告がありましたように、現在部会長が空席になっておりますので、新部会長が選任されるまでの間、私が議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速、議事に入りたいと思っております。

お手元にあります議事次第の議題（1）部会長の選任並びに部会長代理の指名についてですが、まず、新しい部会長を選任することになります。

部会長の選任につきましては、東北地方交通審議会船員部会運営規則により公益委員のうちから互選により選任すると規定されていますが、いかがいたしましょうか。

【森 公益委員】

部会長には、これまで部会長代理を務められて、船員部会及び最賃部会等に造詣が深く、かつ、経験も豊富な高橋真委員を推薦したいと思っております。

【高橋（真） 部会長代理】

今、森委員のほうから私が部会長に推薦されましたが、いかがでしょうか。

【委員全員】

異議なし。

【高橋（真） 部会長】

今、私が皆様から選任されましたので、私が部会長を務めさせていただくこととなります。

皆様のご協力を得て、円滑に議事を進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、続きまして部会長代理の指名についてですが、部会長代理につきましては、東北地方交通審議会船員部会運営規則により、部会長に事故があるときは、公益委員のうちから部会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理すると規定されています。この規定によりまして、部会長代理に増田委員を指名したいと思ひます。増田委員、よろしくお願ひします。

それでは、次に議題（２）船員の特定最低賃金の改正決定に関する公示について、事務局のから報告をお願ひします。

（２）船員の特定最低賃金の改正決定に関する公示について

〔澤村船員労政課長から資料１に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ただいまの説明内容に関して、何かご意見、ご質問ありますか。

ないようですので、ご了承いただいたものといたします。

次に、お手元の議事次第の議題（３）管内の雇用等の状況について、事務局から報告をお願ひします。

（３）管内の雇用等の状況について

〔澤村船員労政課長から資料２から資料８に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ただいまの報告内容に関して、何かご意見、ご質問等あればお願ひします。

【熊谷 労働者委員】

８ページですけれども、漁船の部分でのこの54歳の１名の方、九州に就職ですか。ちなみにこの漁船の漁種は何ですか。

【澤村 船員労政課長】

手元に資料がございませんでしたので、次回の部会で報告させていただければと思ひます。

【高橋（真） 部会長】

では、次回までに報告をお願ひします。

そのほかありますか。

ないようですので、ただいまの報告はご了承いただいたものといたします。

続きまして、議題（４）その他に入ります。事務局から何かありますか。

（「特になし」の声あり）

（４）その他

【高橋（真） 部会長】

それでは、委員の皆様から情報提供をお願いしたいと思います。

では初めに、労働者委員の熊谷委員のほうからお願いします。

【熊谷 労働者委員】

3月1日から、中央のほうの団体の平成30年度の労働契約改定交渉ですが、内航の部分での内航二団体及び全内航は、本日、第4回交渉となっております。双方で有効期間の部分は問題ないということで仮合意しているみたいですが、今月末の労働協約締結に向けて鋭意交渉を行っているという状況にあります。

また、第4回日本カーフェリー労務協会との交渉については、昨日、第4回目を開催して終了しておりますが、内航同様、有効期間の仮合意ということで、ほかはまだ妥結には至っておりません。以上です。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。

それでは、使用者委員のほうから情報提供をお願いしますが、何かございますか。

【白幡 使用者委員】

旅客船協会ですが、各事業所さん、新造船建造あるいは計画とか、活発に動いている状況で、塩竈市営汽船が「しおね」という19トンの旅客船を建造しまして、その就航式が3月28日に行われると。

それと、先ほど次長さんからもお話しがありましたが、川近の室蘭－宮古の航路認可が今日おりられたということです。それと4月24日に就航するフェリーのお披露目会を開催するというご案内が来ていました。

あとそのほかにも、網地島ライン、石巻から網地島に行っている船会社さんですが、そこも2隻の旅客船を建造するというのと、それから、松島の企業組合もやはり旅客船を建造するというので、結構景気いいのかなと。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。活発ですね。

【白幡 使用者委員】

そうですね。

【高橋（真） 部会長】

齋藤委員、何かありますか。

【齋藤 使用者委員】

いいニュースではないのですけれども、先週の土曜日、気仙沼の小型漁船が、私どもの組合の管轄ではないのですが、漁場に向けて出て、全く連絡とれないという状況が今まだ続いています。海保とも連携でいろいろ搜索に当たっているようですが、まったく痕跡も発見できないというのは海保のほうも非常にレアなケースだということで、まだ事故とも事件とも断定もできないというか、非常に困った状態で、その安否が気遣われております。

【高橋（真） 部会長】

どの辺というのかわからないのですよね。

【齋藤 使用者委員】

最後の連絡、釜石の沖ぐらいだと思いますが。そんなに沖合でもないので、翌朝からすぐ海上自衛隊も含めて、海保の船舶が4隻出て、ヘリコプターも含めて行っていますが、全く、その……何ていうか、漁船ですので、例えば、浮き玉とか何らかはありそう、事故であれば。全く発見できないということですね。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

【齋藤 使用者委員】

あとは、今、旅客船の方からも報告があった、漁船のほうも相当船齢がいていて、建造ということが非常に大命題になっているところですが、最も現在困っておりますのは、漁船の建造、造船所がもうなくなっていると。産業全体、漁業の衰退ということが背景にも当然あるのだろうと思いますが、造船所もなくなって、いざ造ろうと思っても、簡単に建造場所がないとかそういった問題も残っています。

【白幡 使用者委員】

技術者もいないですよ。まさしく国家の基幹産業であった造船業が、要するにそれに従事する方々もどんどん減っていて、昔だったら長崎大学に造船工学とかありましたが、今はないですよ。少ないです、きわめて。

【高橋（真） 部会長】

そうすると依頼する場所は、ある本当に限られた場所になるのですか。

【白幡 使用者委員】

漁船の場合は特殊ですよ。

【高橋（真） 部会長】

気仙沼にはあるのですか。

【齋藤 使用者委員】

漁船は本当に少なく、大型漁船では、今は、気仙沼と静岡県の清水、あとは長崎と、ほとんどその3カ所ぐらいです。小規模なところは若干ありますけれども。

【高橋（真） 部会長】

そうすると、船員不足もさることながら、造船所自体がなくなると、かなり深刻

ですね。はい、わかりました。ありがとうございます。

【佐々木 公益委員】

それは規模にかかわらず、小型の漁船でもそうでしょうか。

【齋藤 使用者委員】

私が今言ったのは、おおむね100トン以上の船ということですね。小型の、いわゆるFRPで建造するような船は、ヤマハとかヤンマーとか、1つの型の量産型で造っているああいう船は、ないことはないのですが。

【白幡 使用者委員】

FRPの場合は型を起こせば、その型に合わせて造れるので、比較的容易なんですよ。

【高橋（真） 部会長】

こういったものは国策として維持してもらおうとか、そういうふうにはならない。

【齋藤 使用者委員】

そういうことは言って……

【高橋（真） 部会長】

言ってはいるものの……。

【熊谷 労働者委員】

でも、今日の新聞に出ていましたよね。みらい造船の。吉田造船、小鯖造船の。

【白幡 使用者委員】

国のほうもそっちの方向で動いていますよね、今ね。

【阿部 海事振興部次長】

実は、震災で東北の造船業者さん、大分被害を受けたものですから、それを何とかしましょうということで、東北運輸局としても、復興の3本柱として造船業の復興というのをやっておりまして、青森、岩手、宮城の東北被災3県です。いずれその被災したところに対しては、その補助金を使って復興させましょうということで動いておりまして、かなりやる気のあるところは、もう復興は進んでおります。

ただ、今残っているのが、先ほど出ましたみらい造船。これが一番大きいところで、補助金にしても100億以上の補助金を交付して行うことになっております。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

【増田 部会長代理】

先ほど旅客船の造船、新設が幾つかあるというのは、やはり震災で船が流されてしまって、今、新しいのが立ち上がったと、そういう感じでしょうか。それとも業務が拡大してということなのでしょうか。

【白幡 使用者委員】

要するに、ある程度安全を担保するには、船齢が古くなってくれば、当然造りかえないといけないわけですよ。

あとそれと、今の主流は、いわゆる19トンという一つのラインがありまして、20トン以上になると国土交通省が、19トン以下であれば小型船舶検査機構というところで、船員の数にしても、検査にしても、経費が比較的にかからないということで、19トンに今シフトしている船会社さんがすごく多いです。

【増田 部会長代理】

では、小さくなっているということですか。

【白幡 使用者委員】

そうです。

【佐々木 公益委員】

20トン以上の船を造るところが……

【白幡 使用者委員】

造るところもあります。そういうところ、要するに鋼船でないといけない部分もあったりするので、20トン以上の船を造るところ、今言った網地島ラインなんかもちょっと大きめのやつだし、松島の企業組合も大きめの船なので、19トン以下が全てではないというか、その部分は、経営状況によっていろいろと工夫されていると。

【高橋（真） 部会長】

よろしいですか。

平岡委員、お願いします。

【平岡 使用者委員】

3月12日ですけれども、東北内航船員対策連絡協議会というのを開催いたしまして、運輸局さんからは澤村労政課長さんを初め4名の方に参加いただきまして、あと当組合から5人、9人で情報交換ということで、各社の雇用状況等ですけれども、各社でも船員の高齢化が進んでいるということと、特に機関部の職員が不足しており、今後もやはりその確保が大変だという意見が出されました。

それから、日本内航海運総連合会の補助事業として、最近、「貨物船の一日」という絵本が出ましたが、それは船員確保育成対策事業として、その本を、東北のほうでも東北6県の幼稚園、小学校図書館に1冊ずつ、2,600冊を各学校図書館に配付するというので、今その作業を進めているところです。全国ではかなりの数になり、1冊420円の絵本ですけれども、それをもって子供に海の仕事に興味を持ってもらおうと。それがやっぱり将来の船員確保につながるのではないかとということです。以上です。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。

それでは、ほかにありませんか。公益委員のほうで何かございませんか。

【森 公益委員】

今、お話がありましたが、機関部の手が足りないということで、私、中央に行つて、内航総連さんなんかと話しましたが、やっぱりエンジンに行く者がいないとい

うことをおっしゃるんですね。ただ、この6ページの商船のデッキとエンジンを見ますと、求人数はデッキの方が多いです。私どもに来る求人も、どちらかというとデッキの方が多いです。学生も、テレビとかで見ているのだと思いますが、高橋英樹さんなど、やっぱりテレビを見ると主役はデッキなので、それでデッキの方がいいということで、7：3ぐらいでデッキ志望が多いですね。新卒の学生は。

【平岡 使用者委員】

それは、多分、職員の絶対数が違うのですよね。甲板部と機関部とでは。例えば499のカーゴでも、甲板部の方は3人とか4人、機関部は2人とか、半分以下になっていますので、それから見ると、機関部の確保が困難であるというのは、どこの会社でもありますね、絶対数が少ないです。定員も少ないのですが。だから求人の数とすれば、当然甲板部の方が多くなるのかもしれないですが、確保するのは機関部の方。

【森 公益委員】

エンジンになったら、採用されるのは甲板員と機関員で採用されて、おりにいるときの給料は違うけれども、部員枠がないですから、乗っているときは職員の給料ももらえますよね。学生にそういう話をして、給料高いよと、エンジンに向けさせようとするのですが、なかなかですね。学生のほうも、やっぱりデッキがいいということで行っている状況です。いろいろ早く上がれるよとか、そういう話はしているのですが。

【平岡 使用者委員】

そうですね。出世は早いんですよね、機関部のほうがね。甲板部は大変ですからね、上がればいいですから。

【森 公益委員】

そういう話は魅力的だと思いますけど。

【平岡 使用者委員】

だから、機関部の方がいいよということですよ、本当は。

【森 公益委員】

そうですね。どちらも行けるのですが、それでも7：3でデッキが多いです。実際に求人も、行くたびに経営者さんからはエンジンが欲しい、エンジンが欲しいと言われるのですが、ふたをあけて求人数を見ると、デッキの方が多いんですよ。エンジンに向けさせようとするのだけど、なかなか難しい。

【平岡 使用者委員】

ぜひよろしくお願いします。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。

そのほかありますか。

ほかにはないので、本日の議事は終了となります。

次回の船員部会は、4月20日金曜日です。開催時間が、これまでとは違いました1時半からということで、会場はここ4階の会議室で開催いたします。時間が変更になりますので、皆さんご注意ください。

◎閉会